



# 大森六中だより

令和3年 1月号  
大田区立大森第六中学校  
校長 松尾 廣文  
TEL 3726-7155

## 三学期始業式 式辞「勝海舟と餅」

1月6日



昔の人は、初夢で縁起がよいのは、「一富士、二鷹、三茄子」と言ったといひます。

成程、富士山は、縁起がよさそうです。鷹も強そうで、何といつても、見栄えがします。しかし、三茄子とはなんだと思ひます。

図書室にある例解学習ことわざ辞典によると、徳川家に縁のある駿河の名物を集めたとあります。

静岡の名物と言つても、今の茄子の生産地は高知、熊本、群馬と続き静岡はなかなか出てきません。

茄子が三番目なのは、家康が静岡の折戸なすが好きだったとか、物事を「成す」から転じたとか、家康が駿河の茄子の価格の高さに驚いたとか諸説あります。

高いと言へば、富士山は勿論ですが、その手前の愛鷹山の高さから「鷹」がついたという説もあります。

これと言つた定説がないのだなということが分かりました。

本校縁の勝海舟は「餅を捨てる」という思い出があつたそうです。

勝が少年の頃、家は大層貧乏で、ある年の暮れ、松飾りも餅も用意できなかつたので使いで親戚の家に餅を貰いにいったそうです。

風呂敷に包んで、両国橋を渡つていた時に、それが破れて、餅が地面に落ちてしまつたそうです。

日がとつぷりと暮れて、提灯ももたない勝は、二つ、三つは拾つたが、あとは見つけることができず、貧乏が癪に障り、餅を全部川に投げたそうです。

これは、勝の著した「氷川清話」に出てくるお話です。

勝は、貧乏な生活の中から、剣術、蘭学に励み、27歳で蘭学塾を開き、ペリー来航にあたり書いた「海防意見書」が幕府に認められ長崎への内地留学、そして、十年後に咸臨丸の艦長となります。

少年時の餅の話をつ晩年に書くとは、よほど悔しい思い出だったのでしょう。苦勞は、人を強くするという例えでしょうか。

「初夢に 古里を見て 涙かな」小林一茶の句です。信濃出身の一茶が、雪深い故郷を夢見て詠んだ句です。

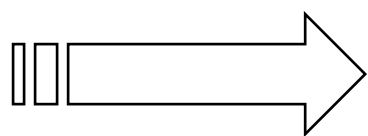
皆さんは、新年、どんな夢を見たでしょうか。寝て見る夢もそうですが、希望を託す「夢」もあります。

皆さんの希望、「今年の夢」が勝海舟の人生のように大きく花開くことを祈つています。

今年は、丑年。牛は粘り強さを表す動物です。

皆さんが、粘り強さを發揮し、夢を描き、成功を掴む一年になるように願つています。

# GOOD BYE 2020



# HELLO 2021

## 2 学期終業式

令和2年の終わりまで残り一週間となった12月25日、リモートでの終業式が行われました。全校で集まることのできない今年度は、様々な行事がリモートで行われました。終業式では生徒を代表して、生徒会の佐藤真歩さんが挨拶をし、「2学期はスポーツ大会が実施されました。お互いを知るきっかけとなり、クラスメイトと協力し、よりいっそう絆を深めることができました。冬休みは物事の優先順位を決めて、計画的に行動するようにしましょう。そして3学期はまとめの時です。3年生は受験に向けて忙しくなりますが、体調に気をつけてください。1・2年生は来年度、六中の顔・心臓としての自覚がもてるように、準備をしていきましょう。」というお話をしました。

## 3 学期始業式

1月6日には3学期の始業式が行われました。校長先生のお話につき、生徒会の茂垣文希君が「1・2年生にとっては準備の冬。3年生にとっては勝負の冬。そして新型コロナウイルスとの戦いにおいても勝負の冬です。みんなで協力して乗り越えていきましょう。」と挨拶をしました。また、生徒の「あゆみ」を読んでもみると、例年より外出をひかえた分、家の手伝いをきちんとしたり、家の方とたくさん話をしたりできた人が多くいて、充実した冬休みになったようです。今年も明るい希望に満ちた一年となりますように。

## 毎日新聞記者の出前授業

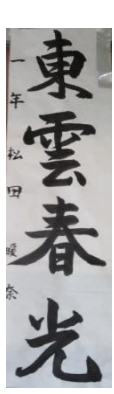
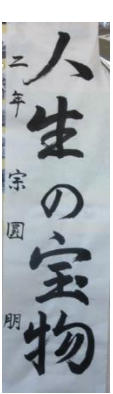
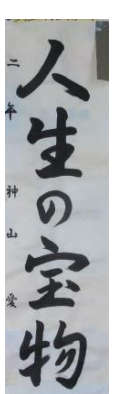
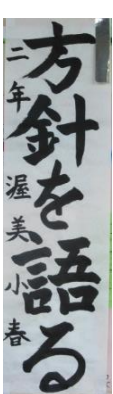
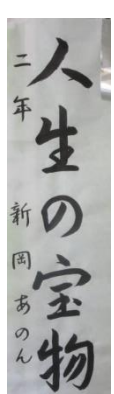
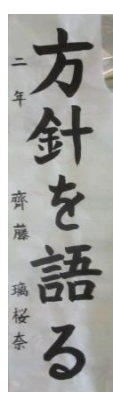
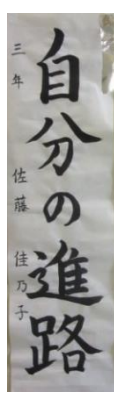
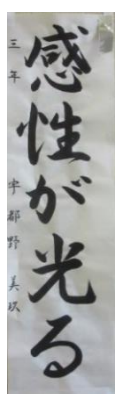
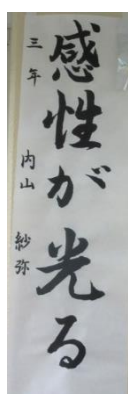
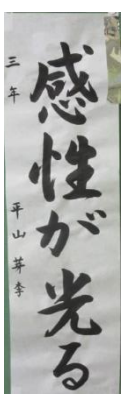
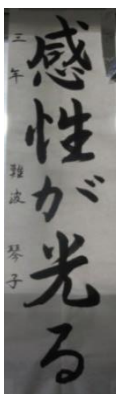
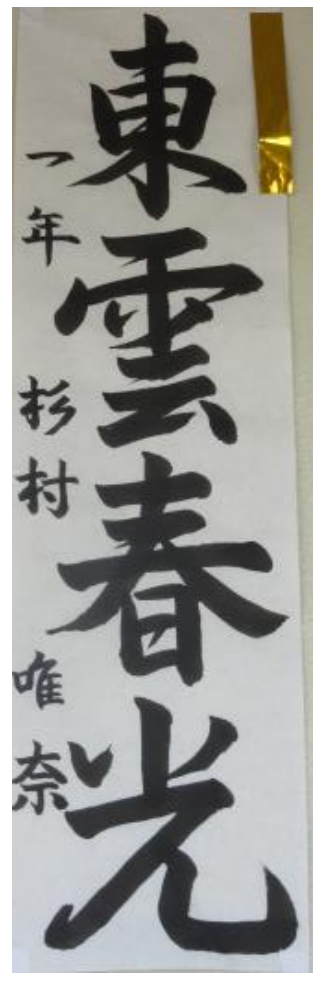
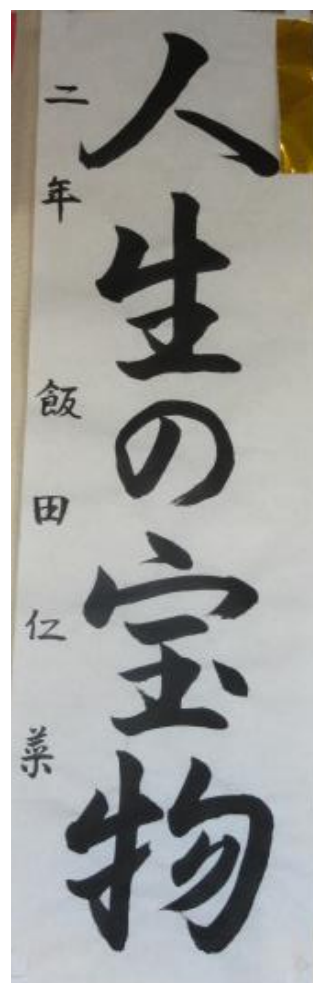
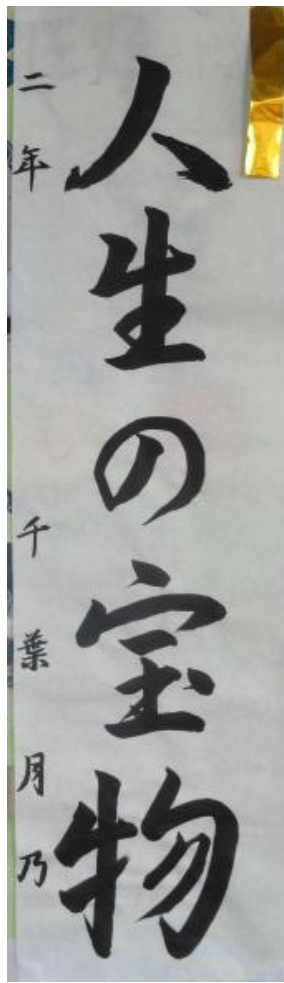
12月16日(水)、1年生の総合的な学習の時間に、毎日新聞記者の方にご来校頂き、「多様性を知る」をテーマに出前授業をして頂きました。

授業では、アメリカで黒人男性が白人警察官から暴力を受けた事件を機に広がった「ブラック・ライブズ・マター(黒人の命は大事だ) = BLM」運動や、プロテニスプレーヤー大阪なおみ選手が、犠牲者の名前を刻んだマスクを着けて試合に臨んだことなどを、新聞記事や動画を交えてお話してくださいました。子供たちは「多様性はSDGsにとって重要なキーワード」という記者さんのお話に熱心に耳を傾けていました。



# 書き初め

今年度も冬休みの宿題として全校生徒が書き初めを提出しました。一人十枚ずつ書き初め用紙をもらい、最高の一枚を提出しました。各学年の金賞と銀賞の作品を紹介します。



- 【金賞】 3300 白澤 花さん 2200 千葉月乃さん 2400 飯田仁菜さん 1300 杉村唯奈さん  
 【銀賞】 3100 難波琴子さん 3100 平山芽李さん 3200 内山紗弥さん 3300 宇都野美玖さん 3300  
 佐藤佳乃子さん 2100 齊藤瑠桜奈さん 2100 新岡あのんさん 2300 渥美小春さん  
 2400 神山 愛さん 2400 宗圓 朋さん 1100 酒井瑠々さん 1100 松田暖奈さん



# 持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

## テレビ朝日「しあわせのたね。」で報道されました

1月9日9:55よりTV朝日「しあわせのたね」という番組で本校のSDGs達成のための活動が取り上げられました。今回取り上げられたのは、洗足池でのホテル復活プロジェクトです。ホテルは環境指標生物で、水、土、空気がきれいでないとい息できない生き物です。水質改善のための水生筏を撤去しているところを大きく取り上げてもらいました。地味な活動ですが公に取り上げられることは、大変うれしいことです。今後も持続可能な未来のための活動を継続して行っていきます。



## 理科の課題学習

### SDGs7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

2年理科物理分野は「電気の世界」です。単元最後にエネルギーについて課題研究し、自分たちにできること、そして、国や世界に向けてしてほしいことを発表しました。その一部を掲載します。2030年までに一人一人の行動に責任を持つことが大切であると改めて感じる発表会でした。

・僕たちは身近なこと（節約、節電、エコバック）から取り組み、無駄遣いしないように努力する。そこで、政府関係者の方々に現状を知ってもらい、危機感を持ち、もっと呼びかけてもらいたい。また、日本の強みである「技術」を極め二酸化炭素削減に努力してほしい。(1組5班)

・私たち学生は、エネルギー問題の現状と課題を知り、日々の生活で節電、省エネを一人一人実行していくことしかできませんが、化石燃料だけに頼らず、発電方法の多様化を図り、再生可能エネルギーを主力として「地球を思いやった発電」をしていくべきではないでしょうか。(2組2班)

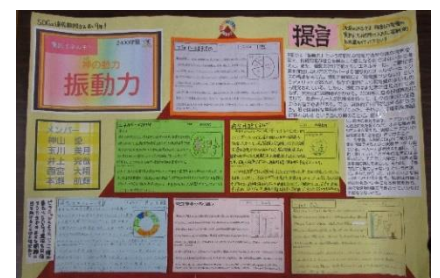
・私たちはまだ学ぶことしかできないが、まなびを生かして社会の担い手となるように努力する。よって、政府は日本の特色を生かし、無害な地熱発電を多く使うべきだと思います。(2組4班)

・《自給自足》私たちは、自然のエネルギーから発電できるものを使うことを心がけるので、政府は自宅で発電できる装置を推奨して下さい。(2組5班)

・私たちは節電、節水5Rを心がけるので、すべての人たちがこれからの持続可能な社会を担うものとして自覚を持ち、エネルギーと環境について関心をもってもらうことを提言します。(3組4班)

・1班では「振動力」という革新的な発電方法が今後の世界を変え、持続可能な社会を創る上で鍵になるのではないかと考えた。また、振動力だけで補えないエネルギーは、二酸化炭素を排出しない方法でカバーする理想的なエネルギーミックスの構成を考えた。振動力発電には「発電量が少ない」というデメリットがあるが、科学の進歩により発電量の多いものも開発されている。しかし、振動力はまだ普及されておらず、実用化には時間がかかる。2030年に迫る目標期限に向けて、私たち一人一人が危機感を持って、日々の身近な生活から見直す必要がある。(中略)実際にエアコンの設定温度を1度下げることによって、各家庭年間約30kgの二酸化炭素を削減できるという実験データも出ている。一人一人が現状を理解し、行動に移していくことが今の世界には必要だ。そこで六中生にはある言葉を刻んでほしい。それは「微力だけど無力じゃない」という言葉だ。

小さな小さな努力がいつか世界を救う。私たちは持続可能な社会の担い手になる自覚を持ち、さまざまな環境問題に向き合っていかなければならない。(4組1班)



生徒の学びが未来を創ると感じます。